

# 十全記念病院

Jyuzen Memorial Hospital

No. 16-022-2014更新

新築  
病院

発注者	医療法人社団 明徳会	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	戸田建設株式会社名古屋支店一級建築士事務所 TODA CORPORATION	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携				
施工	戸田建設株式会社名古屋支店	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他				

## 機能的でアメニティの高い 地域の中核医療施設

### ワンストップでの医療提供

十全記念病院（現：協立十全病院）は、地域の中核医療施設として、予防（健診）から救急治療、一般治療入院、長期療養入院まで、幅広い分野の医療をワンストップで提供している。

今回、近接地への移転新築を機に、新たな医療機能の充実（女性医療センター・PET/CT核医学センター創設、健診・リハビリ・透析の拡充）を行うとともに、

- ① 省エネルギー・省ランニングコストを実現する建築計画
- ② 高齢者に配慮した安全で使いやすくアメニティの高い施設づくり

を目指した。

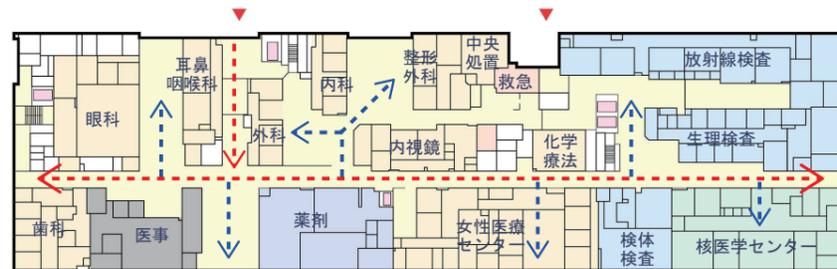
### 機能的な計画

一般的な病院では、手術・透析・リハビリなど中央診療部と病棟とは、別フロアに積層して配置されるが、本計画では、手術・透析・リハビリの各機能を、各々関連の深い病棟と同一フロアに配置している。これにより、患者・病院職員の上り下り移動の負担軽減と同時に、ELVの搬送負荷を低減している。

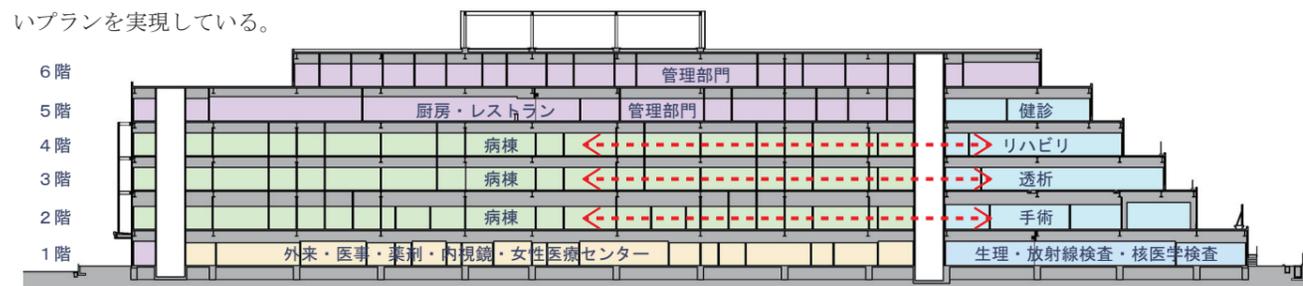
1階には、外来・検査機能を集約し、1本のメイン廊下を中心に配置している。高齢化社会において、分かりやすく迷わないプランを実現している。



北東側外観



1階平面図



断面構成図

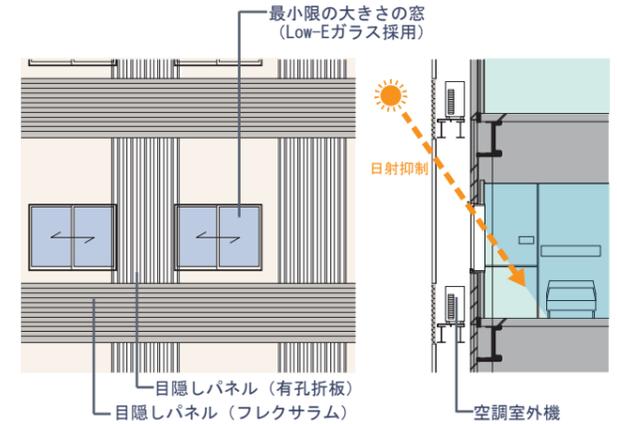
建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地 静岡県浜松市	PAL削減 38 %	Aランク
竣工年 2014年	ERR (CASBEE準拠) 40 %	BEE=1.6
敷地面積 8,926㎡		2007年度版自治体提出
延床面積 17,739㎡		
構造 S造		
階数 地上6階		

### 空調負荷低減と病室空調計画

本計画では南・西・北面に病室等の空調室外機を設置する設備バルコニーを設け、室内機と室外機を近接配置することで機器能力の効率化を図っている。また、このバルコニーにはフレクサラムと有孔折板を用いた目隠しパネルを設けており、外観デザインのアクセントとしている。

外部開口部は、法規上、最小限の大きさに留めると同時に、Low-Eガラス・複層ガラスを採用して、空調負荷の低減を図っているが、さらに設備バルコニーの目隠しパネルによる庇効果により低減効果を高めている。

病室等は、家庭用ルームエアコンを積極的に採用すると同時に、全熱交換機を設置し、省エネルギー・ランニングコスト低減を図っている。



設備バルコニー 詳細図

### 井水利用

天竜川流域の当地域では、良質の地下水が豊富に得られる。本計画では、便所洗浄水や屋外散水栓のみならず、各所洗面や浴室などにも井水を利用している。

災害時の水道水断水だけでなく、井水断絶時にも配慮して、水道水/井水両系統の給水設備が継続して利用できるように、相互バックアップの配管を設置している。



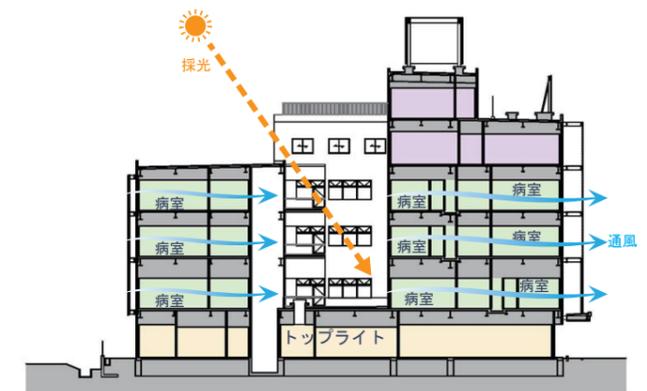
4床室

### 非常発電機による医療機能の維持

非常発電機により、手術室、ICU等の重要負荷や、井水揚水ポンプ、給水ポンプを稼働させて、災害時にも必要な医療機能が維持できるよう計画している。特に、本病院は、透析医療において大きな役割を担っており、東日本大震災の教訓も踏まえて、40床の透析ベッドを稼働させる設定を行った。

### 省エネ配慮の照明計画

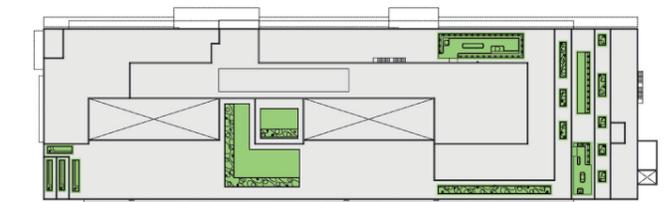
光庭・トップライトを利用して、廊下やWCスペースにも自然採光を取り入れ、照明負荷の低減を図っている。同時に、病室・廊下・WC等、ダウンライト使用箇所は、全てLED器具を採用するほか、WC等には人感センサを使用して、省エネルギー・省メンテナンスに配慮している。



光庭を利用した通風・採光

### 屋上庭園

建物が順次セットバックしており、屋上が分散配置されていることを利用して、多数の屋上庭園を設けている。患者が直接利用できるリハビリ庭園以外にも、室内各所（透析・健診・レストラン）から眺められる屋上庭園を配置することで、患者アメニティに寄与するほか、屋上の断熱性能向上を図っている。



屋上各所に配置された屋上庭園

設計担当者

統括：竹内淳二/建築：小倉哲/構造：千田啓吾/設備：永井裕之、五十嵐祐敬

### 主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (井水利用)
- LR1. 1. 建物の熱負荷制御 (PAL性能向上、Low-Eガラス、複層ガラス、庇)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (光庭による採光・換気、トップライト)
- LR1. 3. 設備システムの効率化 (全熱交換機、LED照明)
- LR2. 1. 水資源保護 (節水型衛生器具)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (屋上緑化)